

2023年1月24日

人と防災未来センターの20年 と新たな挑戦

阪神・淡路大震災記念 人と防災未来センター長

河田 恵 昭

1. 過去の評価 と将来の挑戦の関係

なぜ突然変異が起こるのか

- たとえば、コロナウイルスの変異種は、50数秒に1つ発生していると言われている。
- 生物の進化は突然変異によって持続されてきた。
- 突然変異が起こる理由は、そのまま継続すると必ず衰退するからと言われている。
- 私たちの社会も変化しながら持続する必要がある（アナロジー）。
- 変化は新たな挑戦によって生まれる可能性が大きい。

なぜ過去の評価が必要なのか

- これまで20年間、必ずしも順調ではなかったという謙虚さが必要である。
- 順調に成長しなかった理由を根拠に“突然変異”することができる。
- 改革は、まさに不十分だったところを正確に意識して初めて可能となる。。
- 改革は、ネガティブだったところを認めることができる人が協力して進めなければ成功しない。
- 過去の不都合な事実正面から向かう勇気がなければ、改革は成功しない。

6つの目標の達成度

- 過去18年間、自己点検評価を実施してきた。
- 同時に、事業評価委員会によって毎年、評価を受け、両社の成果の整合性を求めて活動が続けてきた。
- しかし、これらは各1年の評価であって、20年間全体の評価ではない。
- この評価ができるのは、20年間センター運営の責任者を務めたセンター長である。
- ただし、センター長による主観的評価だけではなく客観的評価に耐える資料は存在している。

人と防災未来センターの設置理由

- 阪神・淡路大震災で寄せられた国内外からの温かいご支援に対して、震災の教訓を21世紀と世界に向けて発信する。
- 6つの目標に関係して、未だ十分な成果を得ていないのは“世界に向けて発信する”ことである。
- これは発信した教訓が、世界各地で実践的に利用される環境を創ることと同じである。

2. 参考になるSGDs

わが国は“防災”で国際社会をリード

- 1990年を初年度とする国連の「国際防災の10年、IDNDR」を提唱し、全会一致で採択された。
- ところが皮肉なことに、この10年は大災害が世界中で発生した。91年バングラデシュ・高潮、フィリピン・ピナツボ噴火……
- 途上国で大災害が起こると、それまでの経済開発努力が無に帰すことがわかった **（貧乏になる）**。
- したがって、経済開発するにはまず、防災対策を先行しなければならない（防災の主流化）。
- その成果が、2001年ミレニアム開発目標、2005年兵庫行動枠組、2015年仙台防災枠組、同SDG s に反映された。

持続可能な開発（SDGs）のための 2030アジェンダ

● MDGsとSDGsの比較

MDGs

ミレニアム開発目標

Millennium Development Goals
2001～2015年

8ゴール・21ターゲット
(シンプルで明快)

途上国の目標

国連の専門家主導で策定

SDGs

持続可能な開発目標

Sustainable Development Goals
2016～2030年

17ゴール・169ターゲット
(包括的で、互いに関連)

全ての国の目標
(ユニバーサリティ)

国連全加盟国で交渉

実施手段も重視
(資金・技術等)

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

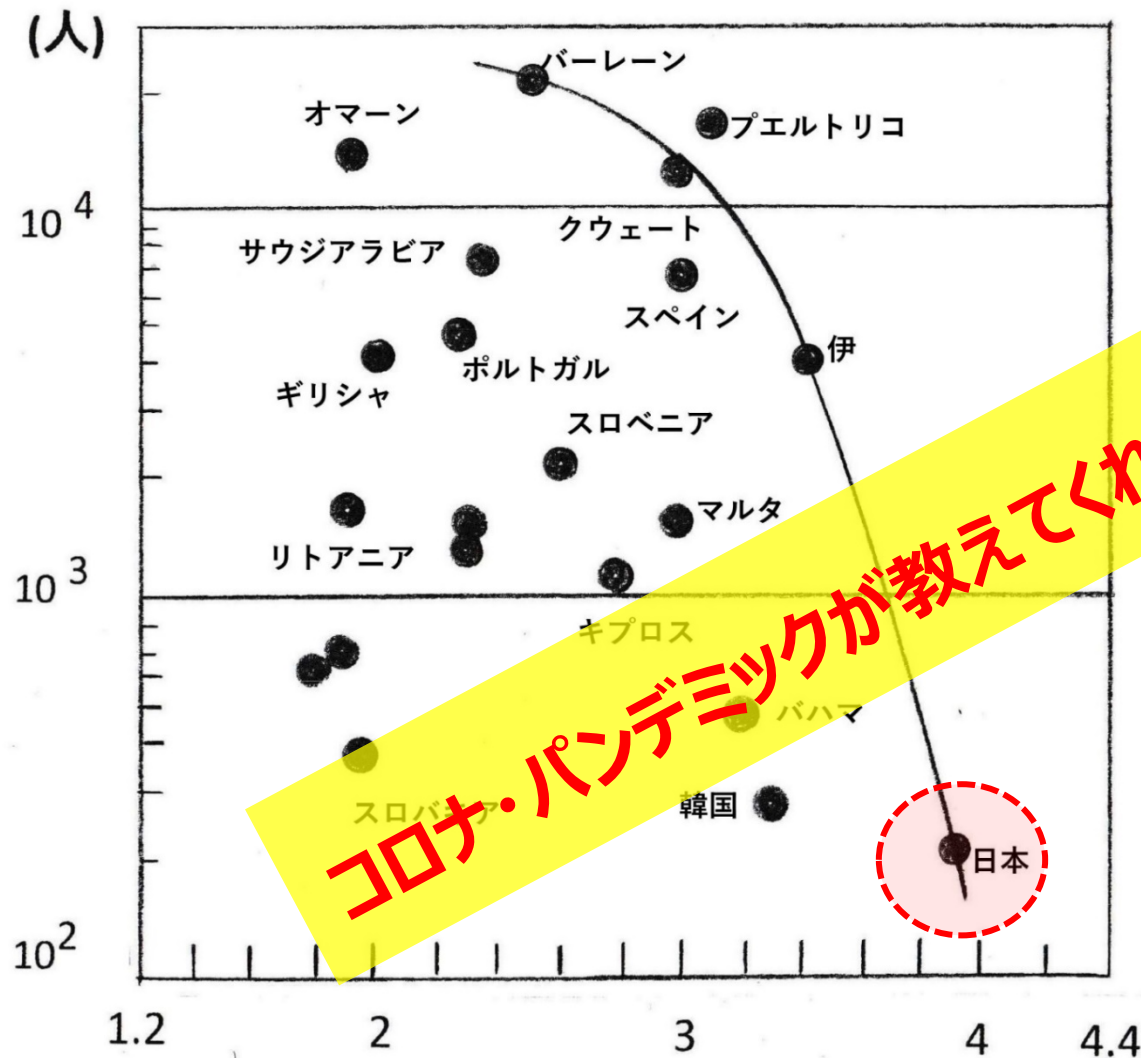
世界を変えるための17の目標



Public Private ACTION for Partnership!!

～SDGsで日本を元気に,世界を元気に
その主役はあなたです!～

人口百万人当たりの感染率



コロナ・パンデミックが教えてくれた！

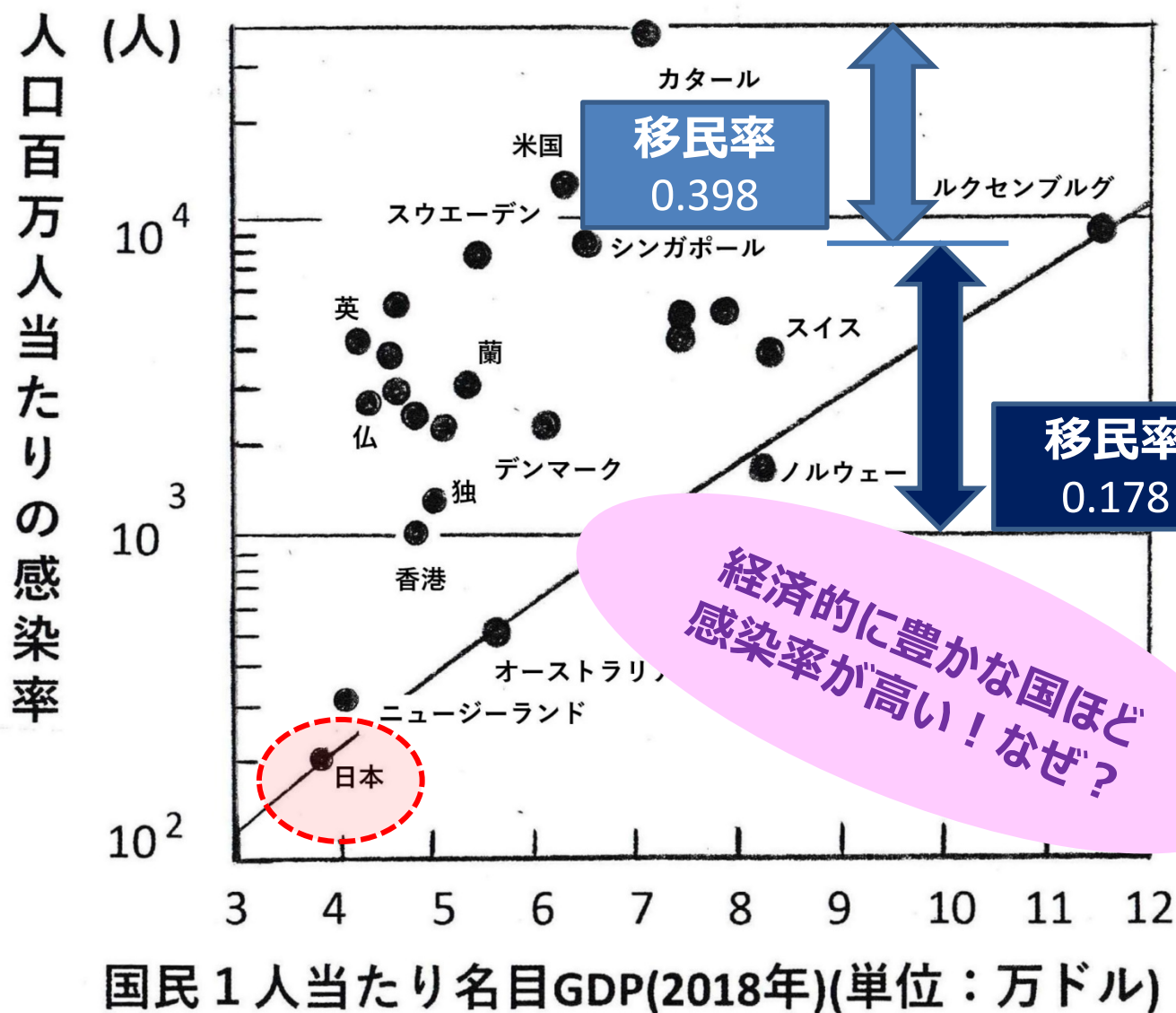
国民1人当たり名目GDP(2018年)(単位：万ドル)



経済的に豊かになる必要がある。

文明的防災力を向上

文化的防災力を向上



生活習慣が洗練され、安全・安心なコミュニティ

Sustainable Development Goals (SDGs)

持続可能な**開発**？あるいは**発展**？

Science Development (科学的**開発**)

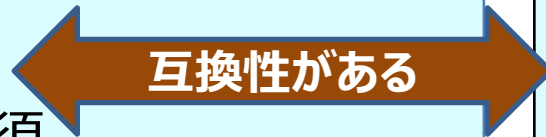
- 社会生活
- 挑戦
- 勇気
- 無生物的
- **普遍性**
- 財源が必須

持続的開発**目標**
(主として、
経済的に貧しい国)

Culture Development (文化的**発展**)

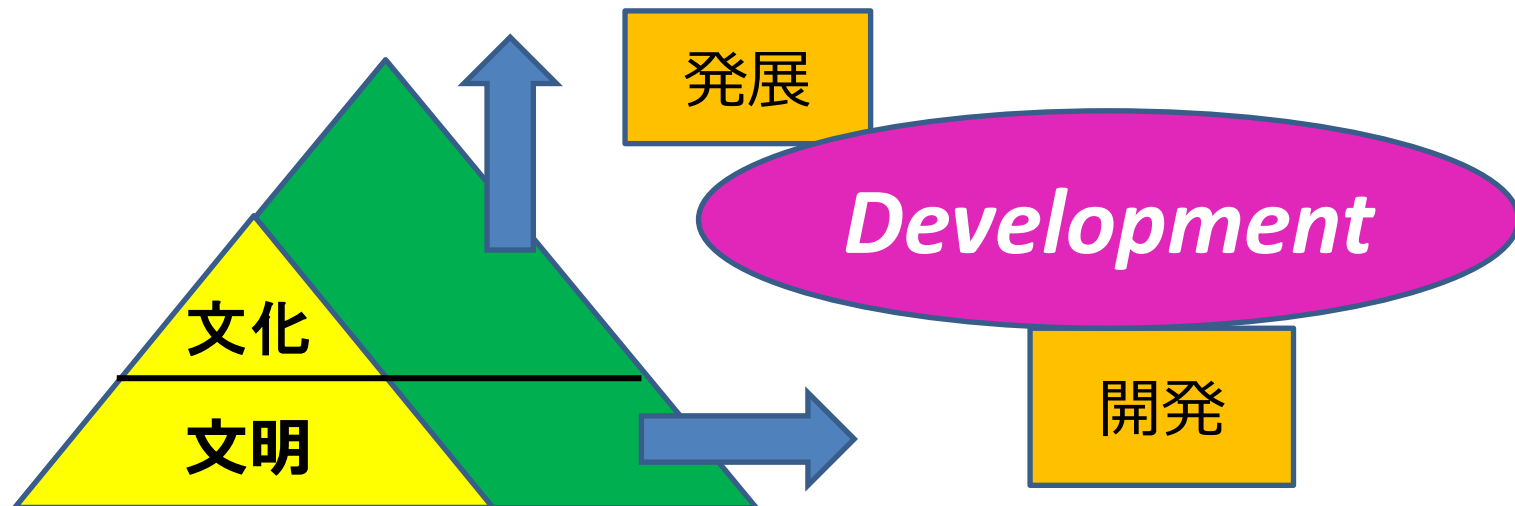
- 日常生活
- 習慣
- 成長
- 生生物的
- **地域性、歴史性**
- 低いコスト

持続的発展**目標**
(主として、
経済的に豊かな国)



防災力を大きくする

- 文明的防災力は、経済的に豊かになれば大きくなる……**普遍的**
- 文化的防災力は、社会習慣が成熟すれば大きくなる……**歴史的、地域的**



3. 防災絵本100年計画

SDGsの第4目標：質の高い
教育をみんなに

SDGsの目標 4 : 質の高い防災教育を

- 初等、中等教育では、基本的に「正解」のあることしか教えない。
- しかし、社会では圧倒的に「正解のない」問題が多い。
- だから、防災教育は基本的に実践的（具体的に答えを見つける）でなければならない。
- 「知識」ではなく「知恵」を教える必要がある。
- その一つが「防災絵本」の普及である。

なぜ防災絵本か？

- ★絵本を各国語に翻訳し、人びとの手元に届けるので、世界中のたとえ貧しい国、貧しい家庭であっても語り継ぐことは可能である（多様性）。
- ★たとえ、子どもや大人が何らかの障害をもっていても語り継ぐことによって平等に賢くなれる（包摂性）。
- ★こころが豊かになり、自助、共助、公助の考え方の理解を進め、社会の防災力の強化につながる。
- ★地球温暖化の進行で、これまで災害とほぼ無縁だった先進国（日米を除く）では、社会に防災の知恵がなく、この防災絵本が必ず役に立つ。

BOSAI 100年 えほん PROJECT

2022 始動！ 事業概要



「絵本」。
絵とことばがからみあい
大切なことをわかりやすく伝える世界

この「絵本」の力を借りて
子どもから大人まで
「防災」の知恵を知り
命を守る行動を身につけるための
プロジェクトが始動します

目指すのは
100年先の未来まで防災の知恵を届け
世界の防災・減災に貢献すること

大雨が降り避難が呼びかけられても
人々が逃げないのはなぜ？
それは逃げるのが
日常の生活習慣になっていないから

豊かな感性を育む幼児期に
大人から子どもに読み聞かせ
無意識のうちに身につく
大人になっても忘れない

災害に遭遇しても負けない
そんな災害文化の定着をめざす
この壮大なプロジェクトに
あなたも参加してみませんか？

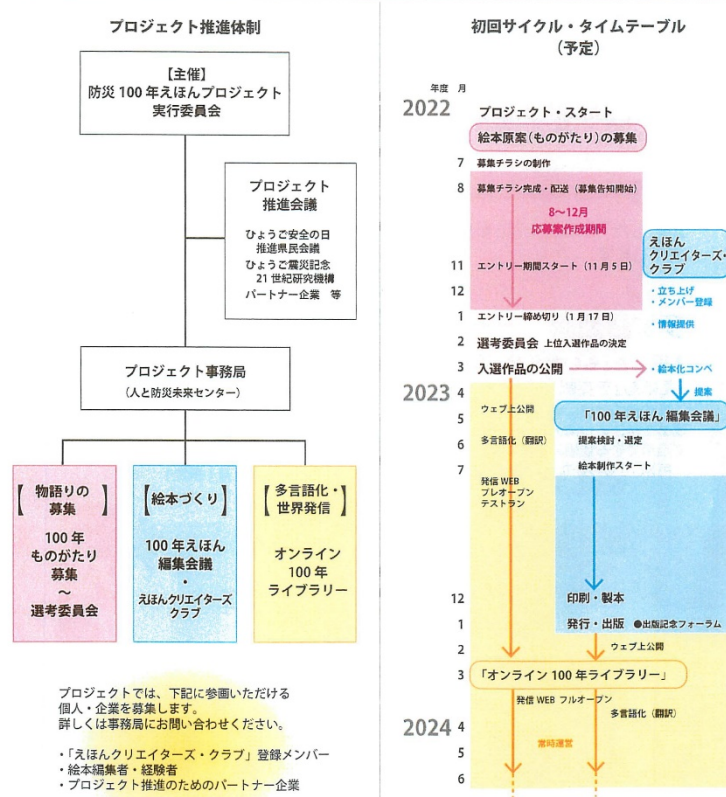
～絵本の力で、災害文化の定着を～

防災 100 年えほんプロジェクト 実行委員会

事務局 阪神・淡路大震災記念 人と防災未来センター

BOSAI 100年 えほん PROJECT

防災 100 年えほんプロジェクト
2022 年スタート 第 1 期 (2022～2023 年度)
事業予定・推進体制



<https://bosai100nen-ehon.org> (予定)

防災 100 年えほんプロジェクト 事務局

(阪神・淡路大震災記念 人と防災未来センター 事業部運営課内)

メールアドレス: (新規設定予定)

〒651-0073 神戸市中央区臨海沿岸 1-5-2 西館 5F TEL: 078-262-5502

2022.7.12

期待する災害文化の形成

- 防災絵本の読み聞かせによって、さまざまな教訓が大人から子どもへ、あるいは大人が読んで頭の中の知識が増える（メタバースの世界の拡大）。
- 教訓を知っている大人や子どもが、世界各地にある災害ミュージアムを訪れて、実際に起こったことを理解する（リアルワールドの出来事と認知）。
- あるいは「語り継ぎ」によって、メタバースからリアルワールドに繋がる。

防災絵本による方法の特徴

- ★とくに乳幼児・児童に教育効果があり、それは一生継続する。
- ★乳幼児・児童にとっては実際の体験として受け取られる（メタバースの世界ではなく実世界の出来事）。
- ★絵本による普及のほか、インターネットなどによるデジタル情報の提供、紙芝居などの文化的方法など多種類の普及方法を採用する。
- ★途上国の貧困家庭をターゲットとしたSDG s の実践例となる。
- ★地球温暖化による災害のグローバル化（例えばG7が多発国になる）に対応できる。

4. 持続的な国難災害研究

SDGsの第1目標：
貧困をなくそう
(災害をなくそう)

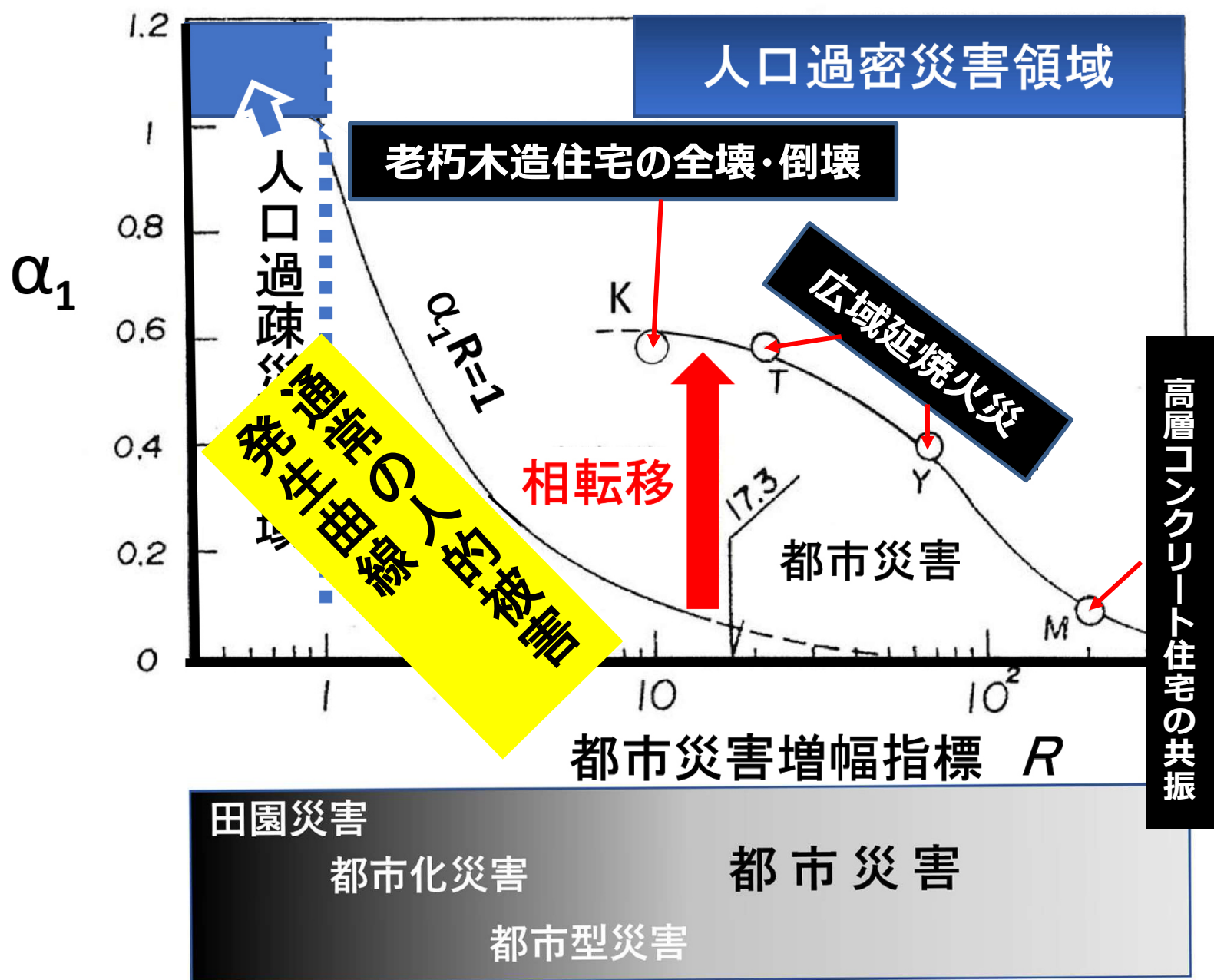
なぜSDGsの第1目標が「貧困をなくそう」になったのか？

- 国際的には、1990年代から「**自然環境の改善**」と「**減災の推進**」の2つが目標になった。
- そして、環境が悪化すると災害が発生しやすくなることがわかった。
- だから、減災が統一目標になった。しかし、国連加盟国約200カ国中、災害が多発する国はその3分の1だから、「減災」で全加盟国の賛同を得るには難しく、「**災害に遭遇すると貧乏になる**」ので、「貧困をなくそう」が第1の目標になったといういきさつがある。

国難災害が起こると日本は潰れる！

災害名の例	規模	30年以内発生確率	震度	被災地人口	想定死者数	がれき量	被害額	備考
首都直下地震 (被害：政府発表)	M7.3	70%	7	約2,540万人 (震度6弱以上)	約2.3万人	9,800万トン	95兆円	首都機能の喪失を伴うスーパー都市災害
南海トラフ 巨大地震 (被害：政府発表)	M9.0	70～80%	7	約4,073万人 (震度6弱以上)	約23.1万人	3.1億トン	220兆円	影響人口(津波浸水深：30cm以上)：6,088万人 災害救助法が707市町村に発令されるスーパー広域災害
東京水没 (高潮、洪水、津波による3m以上の都心の浸水、筆者評価)	-	-	-	約378万人	15.9万人	5,410万トン	91兆円	全半壊棟数：約73万棟 水域堆積汚染物資の拡散によるスーパー環境汚染災害)

人口過密大都市で相転移が発生



南海トラフ地震と首都直下地震で起こる相転移例

南海トラフ地震

- 地震後の避難遅延による新たな複合災害

1. 地震・津波被災：避難行動要支援者が約22万人犠牲
2. 避難所災害：小、中学校の液状化被害と停電による不適化
3. 行方不明者搜索難航：約4万6千人の不明者の長期搜索続行
4. 安否確認不可能災害：停電、通信障害、道路閉塞などによる安否確認の遅延

首都直下地震

- 停電が引き起こす新たな複合災害

1. 病院災害：1673病院(68%)が震度6弱以上、26万人の入院患者を転院させる必要
2. 輸送災害：石油精製(31%)が不能で燃料供給停止(32%)
3. 食料災害：首都圏で1日2万トンの消費量の供給停止
4. 避難所災害：災害救助法が破綻し、首都圏脱出、全国広域避難

国難災害も迎え撃つ防災体制構築

災害文明（科学）

1. 相転移現象の発見
2. 極端被害の軽減策の実施
3. 標準的被害の軽減策の実施
4. 標準的危機管理手法の確立と共有化
5. 課題解決方法の合意
6. 事前対策の実施

近代科学の発達

災害文化（法治国家）

1. 日本国憲法に緊急事態条項を明記
2. 有事計画策定（災害発生を前提とする）
3. 内閣防災省（庁）＋地方組織（自治体参加）
4. 災害対策基本法、災害救助法の抜本改正
5. 事前対策の実行環境整備

国民文化の洗練